

# 県内飲食店1割減

## 昨年1月から コロナ影響か

新型コロナウイルスの感染拡大で、徳島県内飲食店の約1割に当たる308店が8月末までに閉店したとみられることが、Niiタウページ（東京）のまとめで分かった。電話帳などに番号を登録している店舗数が感染状況の悪化と運動するようになり減少しており、飲食業界へのダメージの大きさを示している。

（27面に関連記事）

Nii東日本と西日本が持つタウページのデータベースには、飲食店名や電話番号が登録されており、

閉店に伴う削除依頼があれば1週間で反映する。今回のまとめでは、コロナ禍前の2020年1月から流行「第1波」に直面した今年8月までの登録件数を互いに算出。同一店で複数の登録があった場合は1店舗としてカウントした。

県内では20年1月に3130店がデータベースに登録されていたが、今年8月には2822店に減った。

緊急事態宣言が出され、県内でも多くの店が自主休業した20年3～5月には69店の登録を解除。流行「第1波」が起きた5月は30店と月別の最多となった。

月別の登録解除件数が2番目に多かったのは20年10月の28店。7月までに累計で26人だった陽性者が8月に107人確認され、飲食店で初めてクラスター（感染集団）が発生するなど、県内でも本格的に感染が拡大した。8～10月の解除件数は60店に上り、感染拡大が影響した可能性がある。

3番目に登録解除が多かったのは今年2月の20店。前月の感染者は187人にとり、月別で当時の最多を更新していた。

期間中に登録解除した308店のうち、市町村別では徳島市が半数以上の168店。次いで鳴門市の22店、阿南、吉野川西市が22店だった。

全国でも同様の傾向が見られた。20年1月末の45万8千店が今年8月末には41万3千店と約1割減。都道府県別では東京から4万9千店から4万9千店、北海道から1万9千店、大阪が3万店から2万7千店へと、いずれも約1割減った。（厚労省）